

2025年3月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社サニックス

2024年8月9日

1. 決算概況
2. セグメント別決算概況
 - ① 住環境領域
 - ② エネルギー領域
 - ③ 資源循環領域
3. 通期連結業績見通し
4. 参考資料

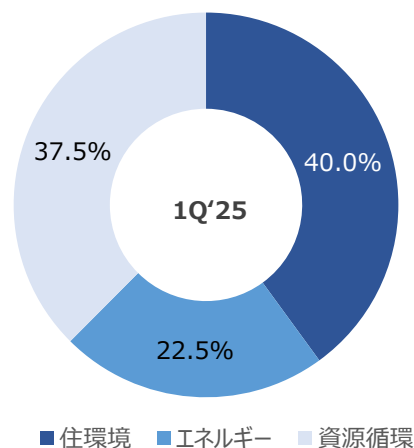
決算概況

(百万円)	2024/3期 1Q 実績	2025/3期 1Q 実績	増減額	増減率
売上高	11,081	10,288	△ 792	△ 7.1%
売上総利益	3,757	3,526	△ 231	△ 6.2%
営業利益	154	△ 116	△ 270	—
経常利益	73	△ 185	△ 258	—
最終利益	63	△ 255	△ 318	—

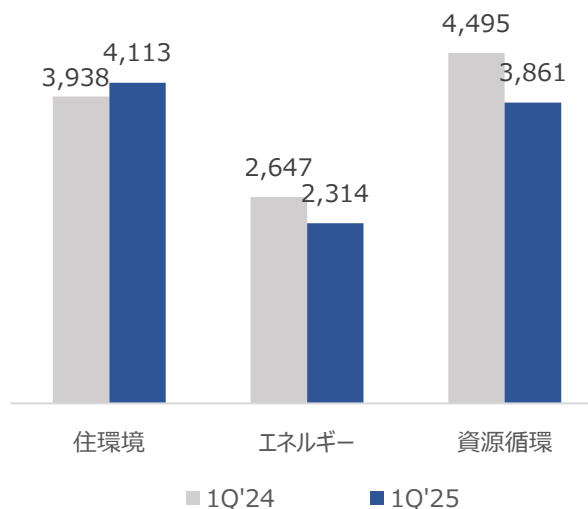
決算概況

資源循環領域における発電事業の売電単価が大きく低下したことで
 全社では減収・減益となったものの、そのほかの事業は概ね堅調に推移

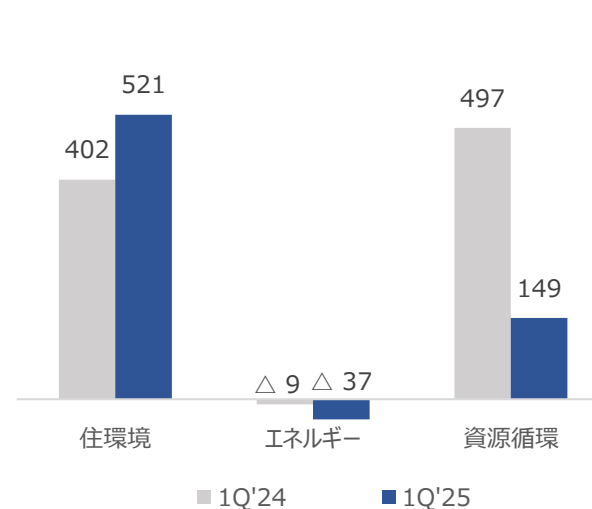
売上高構成比



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)

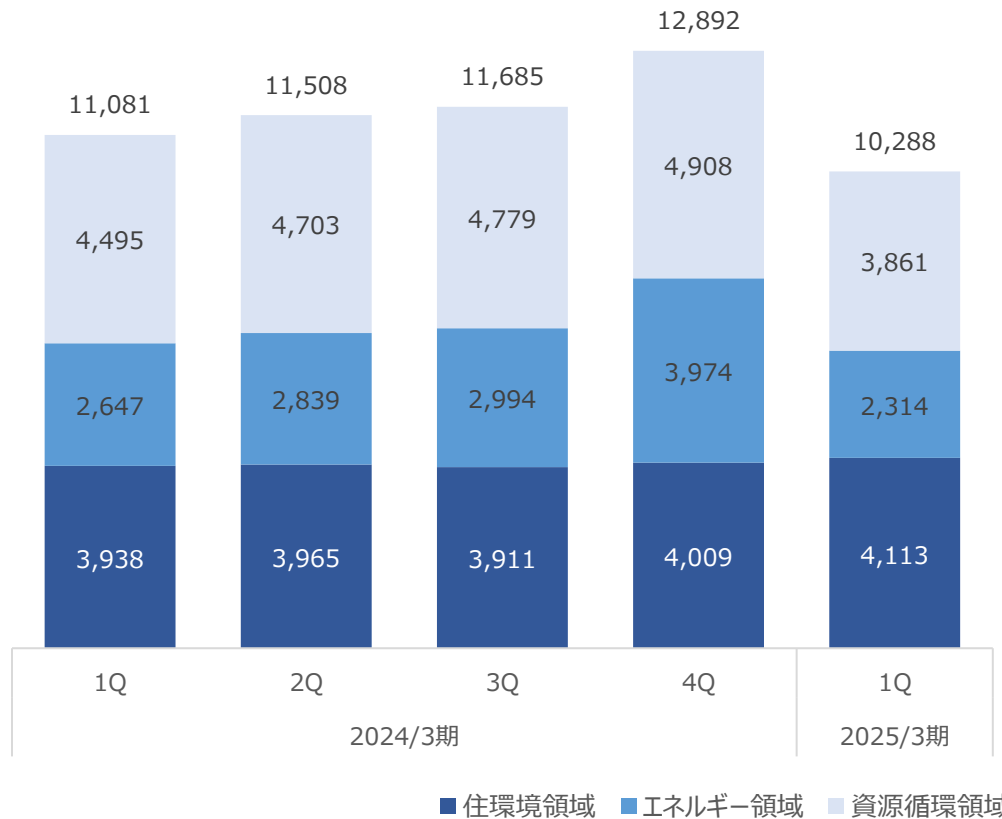


決算概況 | セグメント別概況

		対前年同期(1Q)	
住環境領域	売上高 営業利益	4,113 百万円 521 百万円	(+4.4%) (+29.8%)
			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 売上・利益ともに堅調に推移 ✓ 営業力と顧客基盤を生かした既存事業の拡大 ✓ 提携先拡大等による顧客基盤の拡充
エネルギー領域	売上高 営業利益	2,314 百万円 △37 百万円	(△12.6%) (-%)
			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 受注は堅持しているものの、案件の大型化や高度化等により受注から施工までの期間が長期化し、完工時期に遅れあり
資源循環領域	売上高 営業利益	3,861 百万円 149 百万円	(△14.1%) (△69.8%)
			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 苫小牧発電所の売電契約単価の低下及び、ボイラー更新にともなう稼働停止の影響あり ✓ プラスチック・廃液・埋立事業は堅調に推移
本社費用	営業利益	△750 百万円	(-%)
			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人材確保に向けた採用活動の強化 ✓ HD体制移行に向けた社内整備

決算概況 | 売上高（四半期推移）

(百万円)



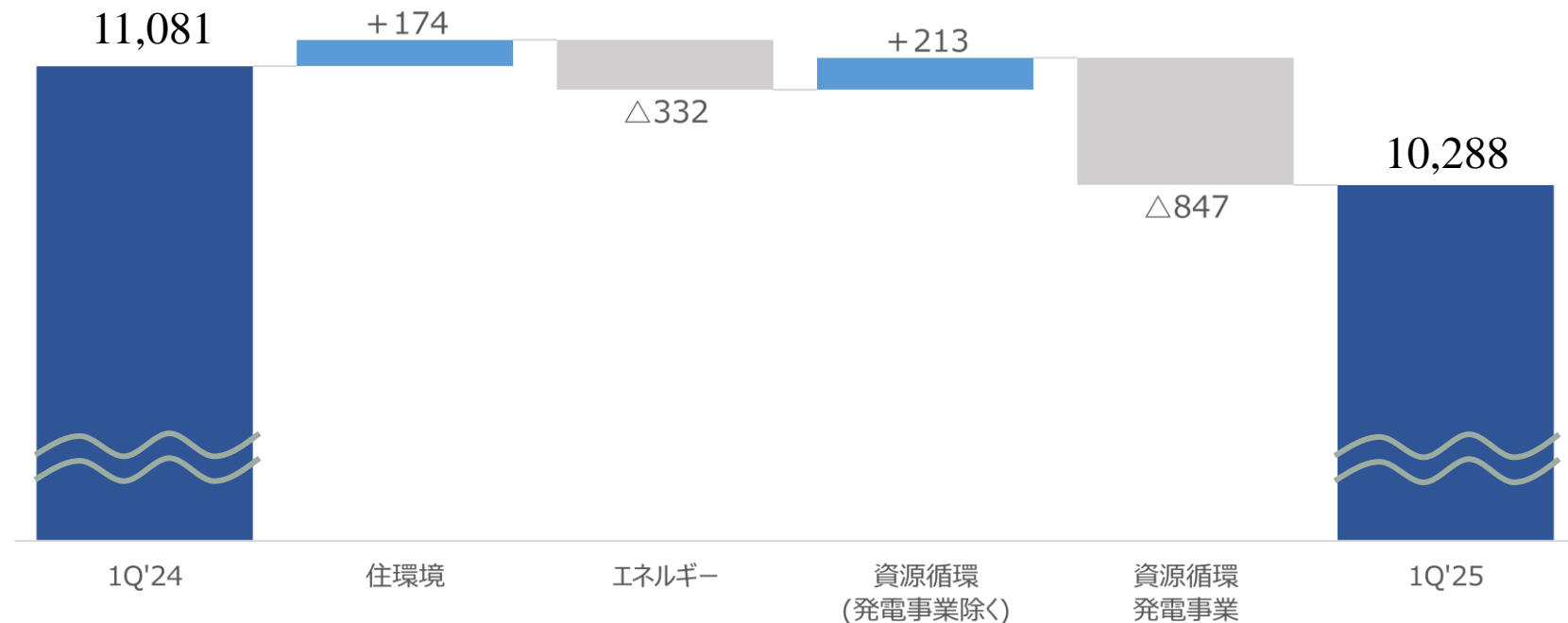
対前年同期(1Q)
△7.1%減

決算概況 | 売上高 対前年同期(1Q)増減分析

売上高

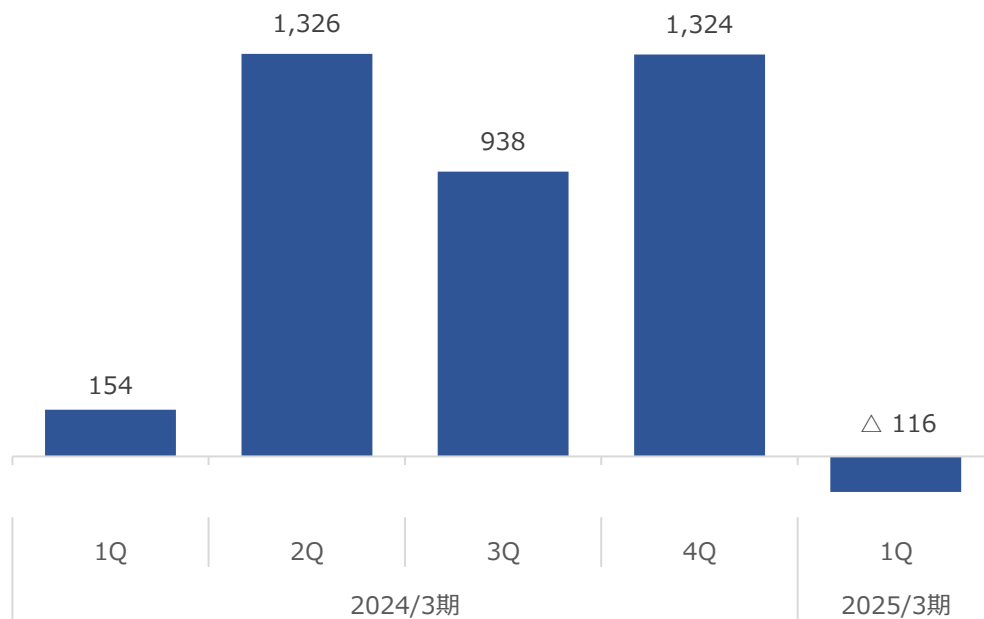
対前年同期(1Q) Δ **792** 百万円 発電事業除く売上 + **55** 百万円

(百万円)



決算概況 | 営業利益（四半期推移）

(百万円)



対前年同期(1Q)

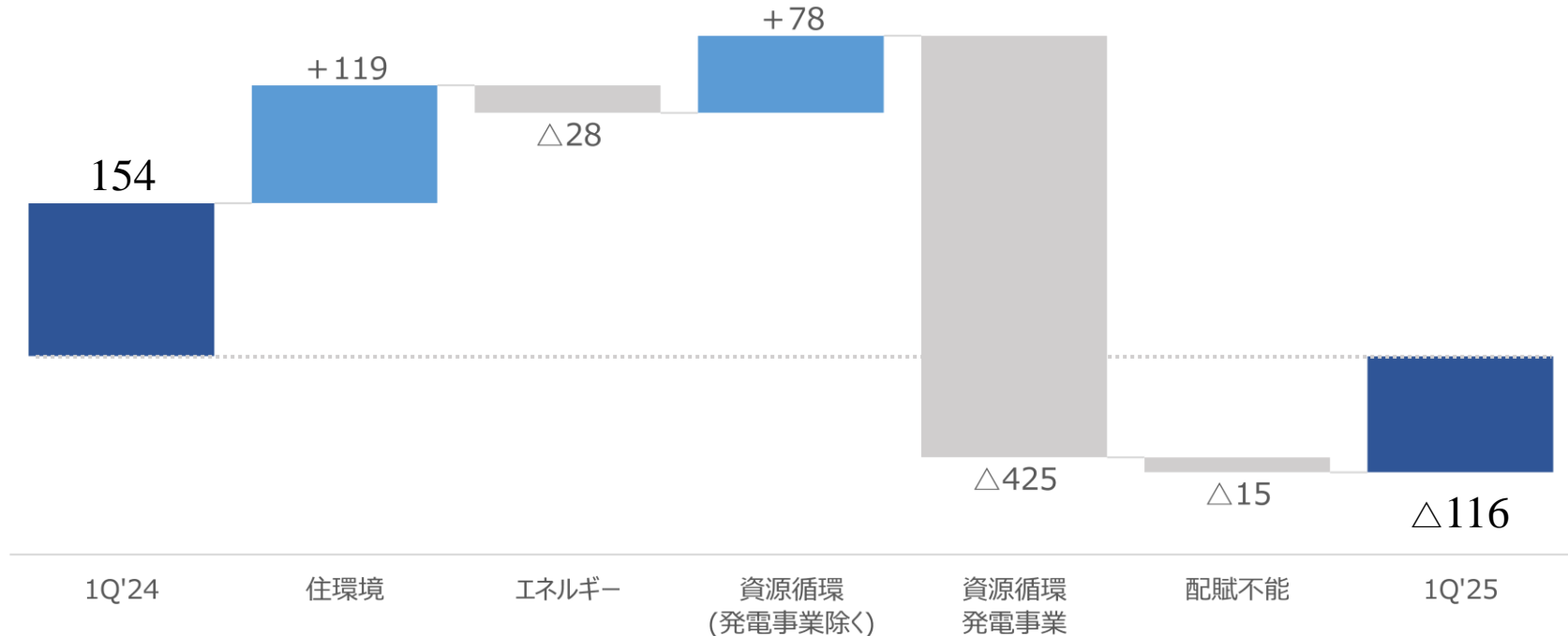
△270 百万円減

決算概況 | 営業利益 対前年同期(1Q)増減分析

営業利益

対前年同期(1Q) Δ **270** 百万円 発電事業除く利益 + **154** 百万円

(百万円)



1. 決算概況
2. セグメント別決算概況
 - ① 住環境領域
 - ② エネルギー領域
 - ③ 資源循環領域
3. 通期連結業績見通し
4. 参考資料



住環境領域

快適な住環境を次世代へつなぐ

- 戸建住宅向けメンテナンス
- 集合住宅向けメンテナンス
- 住宅用太陽光発電設置
- 衛生管理

サンニクスでは、“予防医学（＝未然に防ぐという思想）”の見地から、戸建・集合住宅等のトータルメンテナンスを推進。さらには、太陽光発電やリフォーム、都市空間の衛生管理まで、世代を超えて受け継がれる、快適で衛生的な暮らしを実現します。

HS(ホーム・サニテーション)事業

シロアリの習性を熟知したスタッフが、予防から駆除まで、適切に対処。豊富な経験と実績で培われた専門技術とノウハウ、万全のアフターサービスにより、大切なマイホームをシロアリの被害から守ります。



白蟻防除施工



床下・天井裏換気システム

ES(エスタブリッシュメント・サニテーション)事業

給排水設備メンテナンスの効率的一元管理を実践。主力商品である防錆装置などにより、配管内のサビの発生・進行抑制による配管の長寿命化や、スケール・油汚れの除去・付着抑制によるトラブルの解決を図ります。



ビデオスコープによる水道管検査



害虫防除施工

SE(ソーラー・エンジニアリング)事業

戸建て住宅向け太陽光発電の普及を目指して、環境にも家計にも優しい生活を実現します。また、自家消費型太陽光発電のニーズが高まるなか、蓄電池の導入による電気の柔軟な使い方をご提案しています。

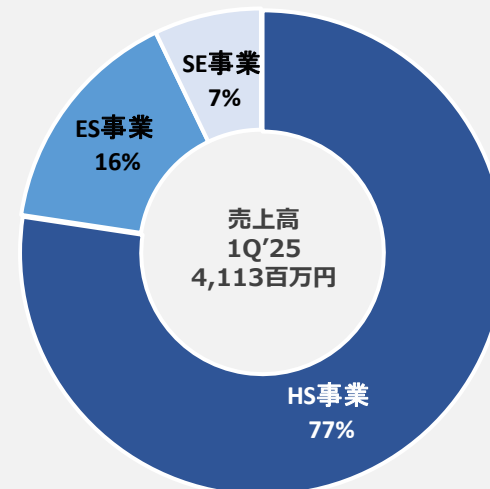


住宅用太陽光発電システム



蓄電池

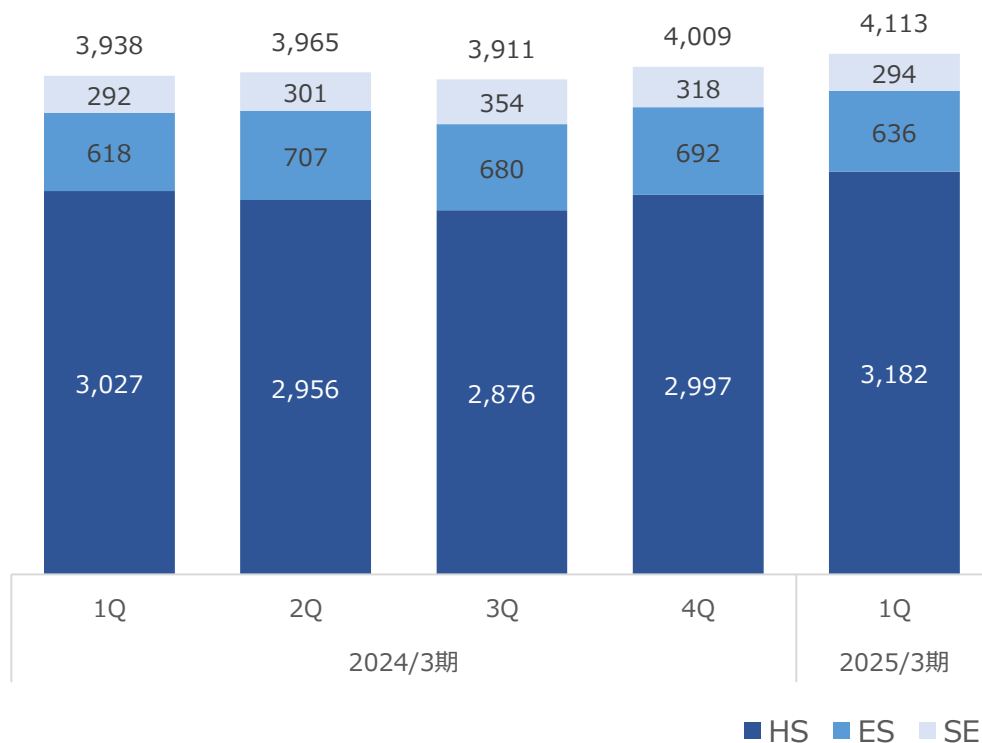
住環境領域 売上高構成比



住環境領域 | 売上高

法人営業体制強化に加えて、営業力と顧客基盤を生かした既存事業の拡大により増収

(百万円)

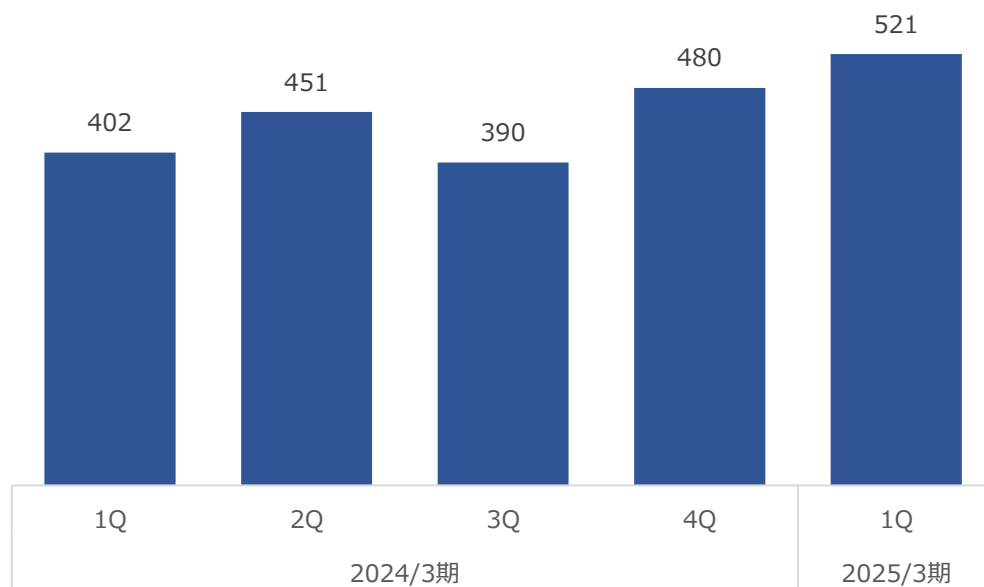


対前年同期(1Q)
+4.4%増

住環境領域 | 営業利益

高い限界利益率を維持し、安定した収益基盤を確保したことにより増益

(百万円)

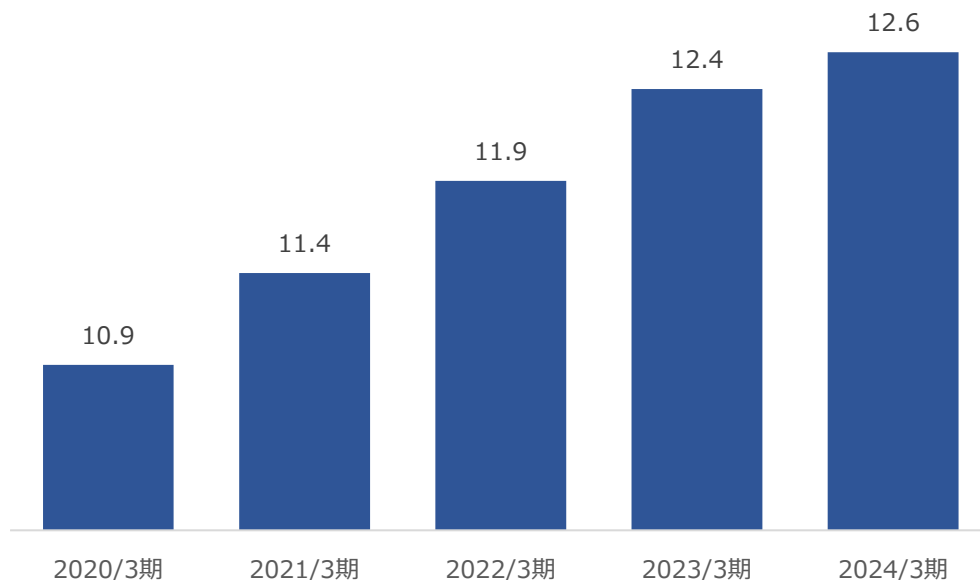


対前年同期(1Q)
+29.8%増

住環境領域 | 顧客件数

2020年3月期以降、顧客基盤は約2万件増加

(万件)



強固な顧客基盤

12.7万件

(2024年6月末現在)

※顧客件数は、HS事業の保証契約継続中の顧客数を記載

1. 決算概況
2. セグメント別決算概況
 - ① 住環境領域
 - ② エネルギー領域
 - ③ 資源循環領域
3. 通期連結業績見通し
4. 参考資料



エネルギー領域

環境負荷の低いエネルギーを普及拡大させる

- 法人向け自家消費太陽光発電設置
- 既設太陽光発電メンテナンス
- エネルギー事業者向け太陽光電源開発
- 電力の小売販売

サンニクスでは、お客様のニーズに合わせて、最適な太陽光発電システムのかたちをご提案、導入からメンテナンスまで、環境経営の推進をサポートするとともに、再生可能エネルギーの普及拡大を図ります。

PV事業

工場の屋根やビルの屋上等の有効利用を促進。法人向け自家消費型・第三者所有型太陽光発電システムを中心に、太陽光発電によるコスト（電気代）削減、災害対策、環境経営をサポート。ご提案から設計、施工、アフターメンテナンスまで、トータルに提供します。



自家消費型/第三者所有型



非FIT電源開発

【第三者所有型(PPAモデル)の仕組み】

PPA事業者が、お客様の敷地や屋根に、PPA事業者の費用負担により太陽光発電を設置(PPA事業者が所有・維持管理)。この太陽光発電で発電された電気を、PPA事業者が、お客様へ有償で供給する仕組みです。



O & M(メンテナンス)

WEBモニタリング(遠隔監視)から、法により義務化されている保守・点検まで。お客様の太陽光発電所の安心稼動をサポートします。

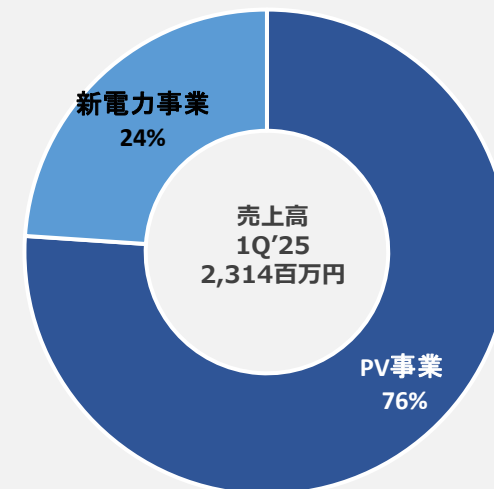
新電力事業

当社は、2001年に全国で8番目に特定規模電気事業者（電力小売）として登録し、2015年11月付で、経済産業省に登録小売電気事業者として登録されています。太陽光発電事業と電力販売は親和性の高い事業。シナジー効果で、幅広いサービスの提供を可能にします。



電力小売

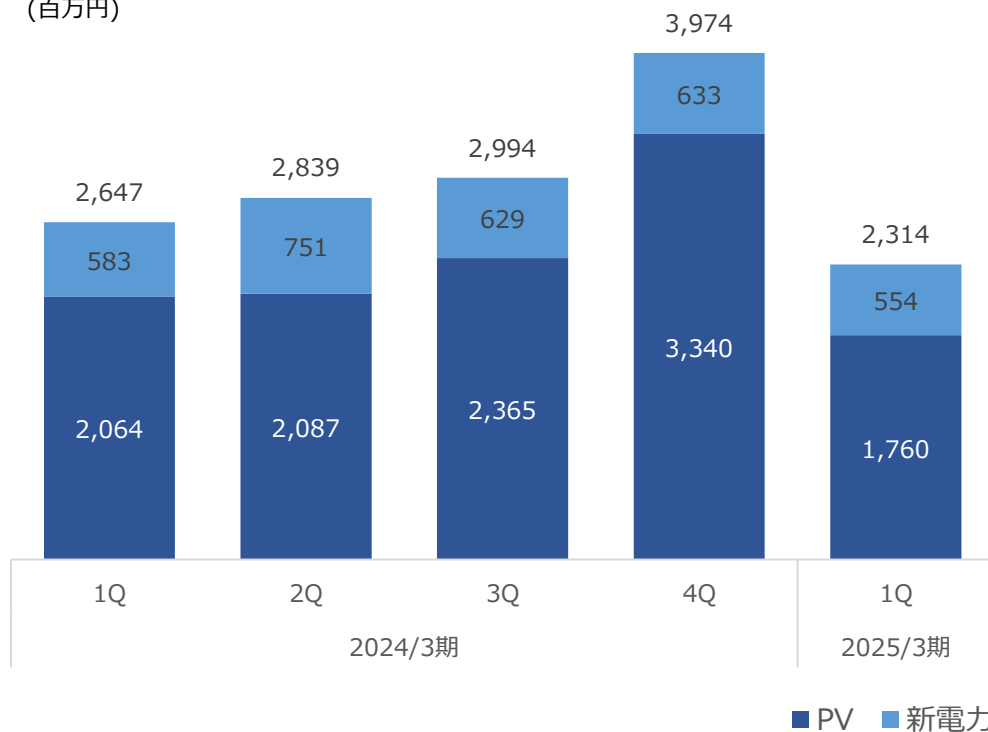
エネルギー領域 売上高構成比



エネルギー領域 | 売上高

脱炭素社会実現に向けた取り組みの本格化と電力コストの高騰を背景に受注は堅持しているものの、電力会社との太陽光発電システムにかかる系統連系の遅れや案件の大型化・高度化等により受注から施工までの期間が長期化し、完工時期に遅れが生じている

(百万円)



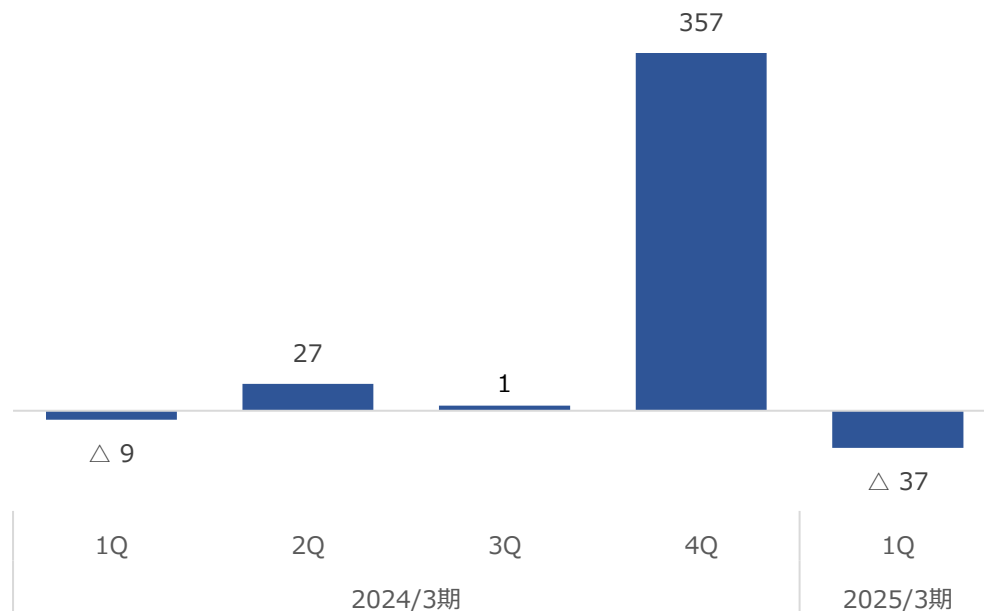
対前年同期(1Q)

△ **12.6%減**

エネルギー領域 | 営業利益

材料コストの低下等により粗利率は改善してきているものの、
完工時期の遅れにより固定費を吸収できず減益

(百万円)

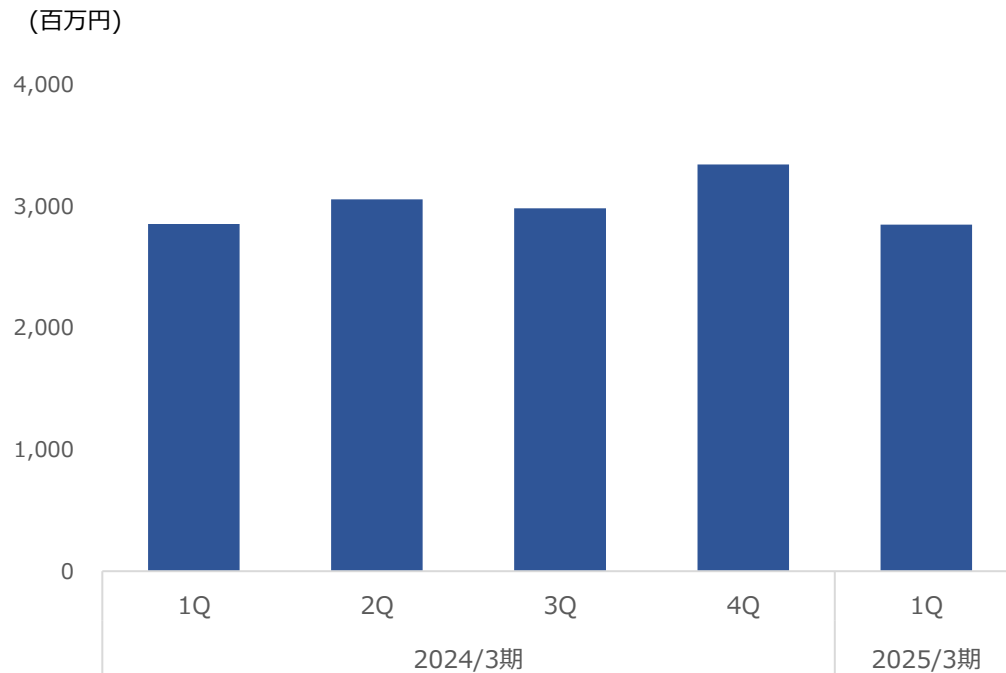


対前年同期(1Q)

△ 28百万円減

エネルギー領域 | PV事業 受注状況

受注高



脱炭素社会実現に向けた取り組みの
本格化と電力コストの高騰を背景に
関心がより高まっている



受注は堅持

※受注高は、お客様より書面にて承諾をいただいた金額を記載

1. 決算概況
2. セグメント別決算概況
 - ① 住環境領域
 - ② エネルギー領域
 - ③ 資源循環領域
3. 通期連結業績見通し
4. 参考資料



資源循環領域

資源を捨てずに循環させる

- 廃プラスチックの再資源化
- 廃プラスチックによる発電
- 廃液の浄化、再生燃料製造
- 産業廃棄物の最終処分

サンニクスでは、産業廃棄物系プラスチックの燃料化・リサイクルや、食品工場などから排出される廃液の浄化及びリサイクルなど、次世代の地球環境を考えた事業を通じ、循環型社会の構築に貢献します。

廃プラスチックの燃料化

産業廃棄物系プラスチックの燃料化を目的とした工場（プラスチック資源開発工場）を、全国各地に15工場展開。大きさや形がさまざまな廃プラスチックを細かく破碎することにより、石油・石炭などの代替燃料として再生。マテリアルリサイクルを本格的に開始しています。



プラスチック資源開発工場



プラスチック燃料

資源循環型発電システム

プラスチック資源開発工場で燃料化したプラスチックを、発電施設のエネルギー源として利用。石炭と比べて、発電熱量が高く、CO2排出量や焼却灰発生量が少なく済むことから、環境負荷が低く、付加価値(非化石価値)の高い電気を供給します。



苫小牧発電所



最終処分場

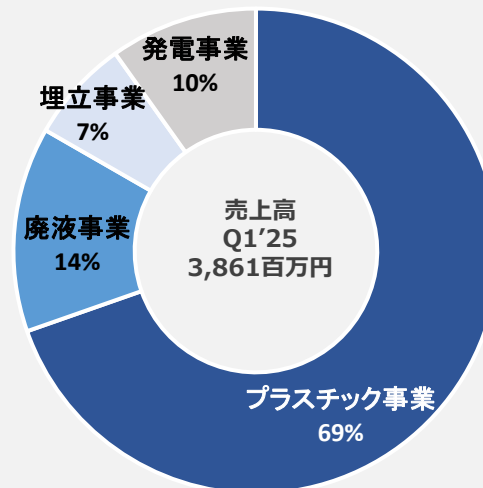
廃液の浄化処理・リサイクル

外食産業の店舗や食品工場、その他雑廃水ピットなどから排出される有機廃液などを、大量に受け入れる体制を整えています。一連の処理工程により、高濃度の汚濁成分を99%以上除去する能力を有しています。また、油分や、脱水汚泥の燃料化リサイクルも推進しています。



廃液処理工場

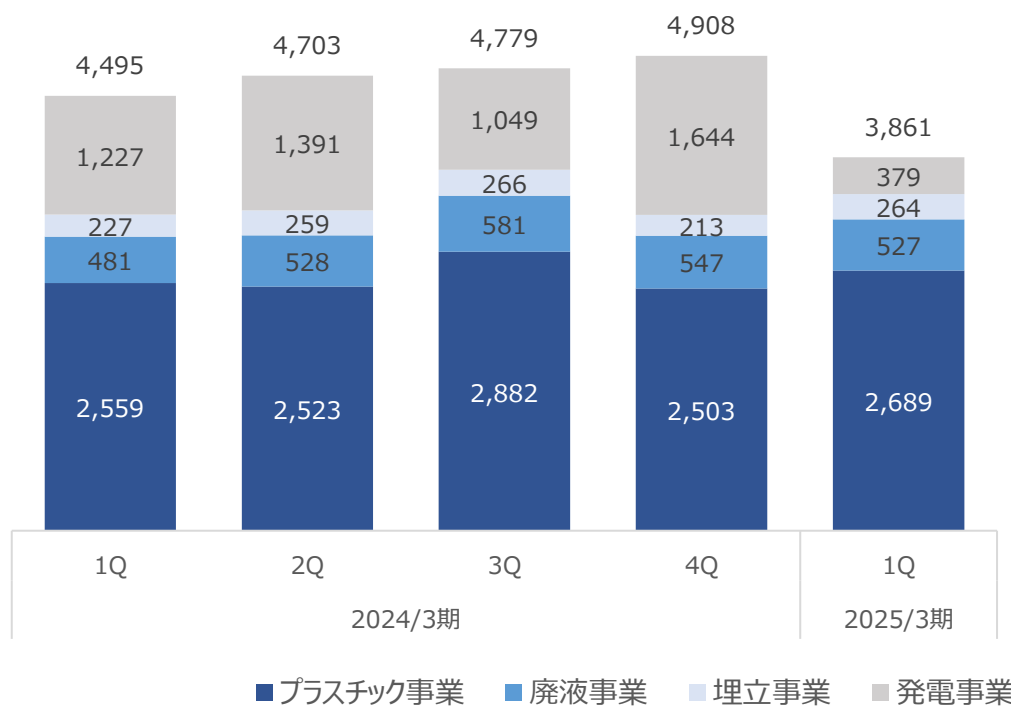
資源循環領域 売上高構成比



資源循環領域 | 売上高

発電事業の売電単価が大きく低下したことで減収
一方で、プラスチック・廃液・埋立事業はそれぞれ伸長

(百万円)



対前年同期(1Q)

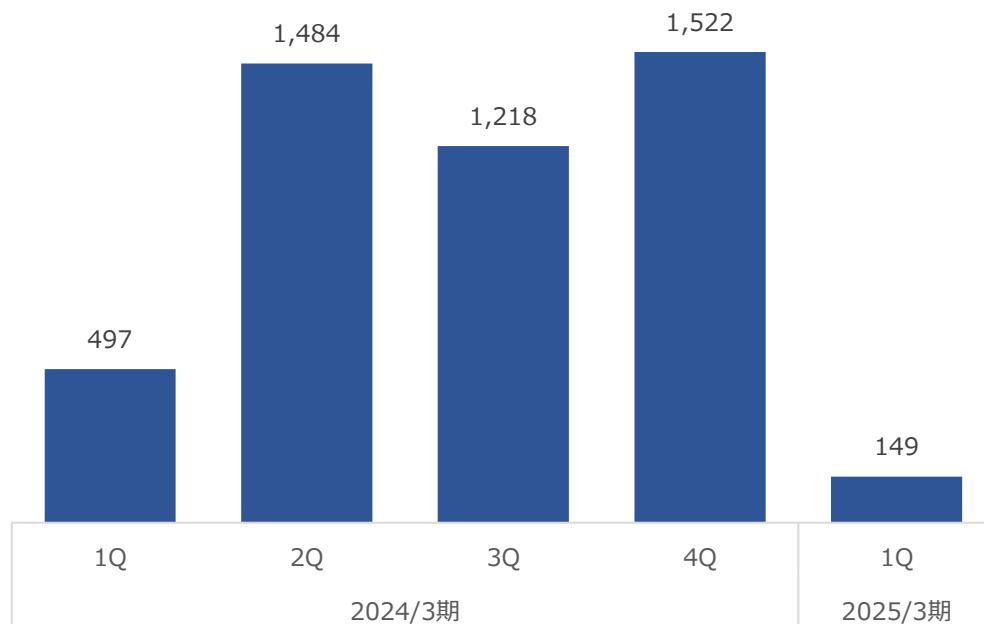
△ **14.1%減**

発電事業除く売上
+6.5%増

資源循環領域 | 営業利益

発電事業の売電単価が大きく低下したことで減益となったものの、
発電事業を除くプラスチック・廃液・埋立事業は堅調に推移

(百万円)



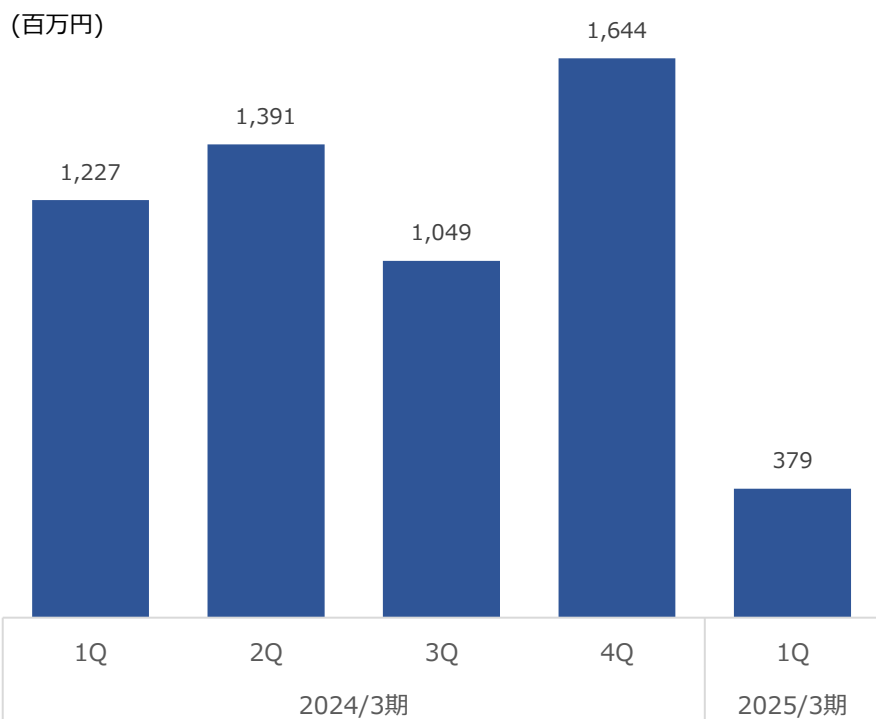
対前年同期(1Q)

△ **69.8%減**

発電事業除く利益

+ 8.9%増

資源循環領域 | 発電事業 売上高 売電単価の低下及びボイラー更新にともなう稼働日数の減少により減収



対前年同期(1Q)
△69.1%減

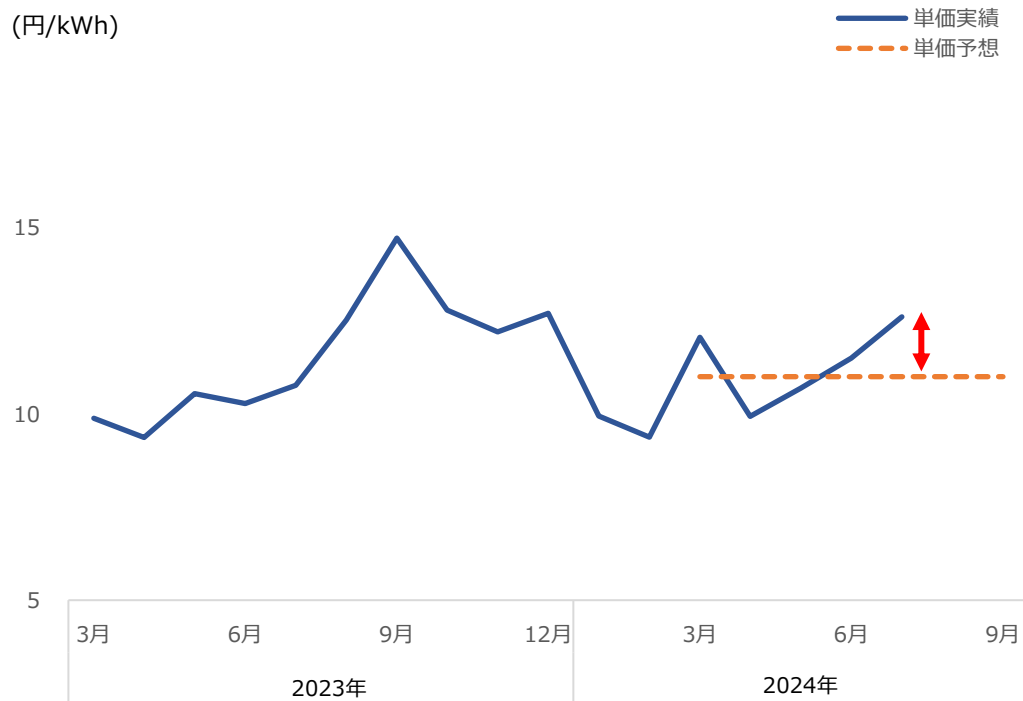
ボイラー更新 (約2カ月)

将来的な安定稼働に向けて
ボイラーの大規模な設備更新を実施

資源循環領域 | 発電事業の販売単価の見通し

7月以降、卸電力取引市場の価格が上昇傾向

卸電力取引市場(北海道エリア)の価格動向



販売面(発電事業)

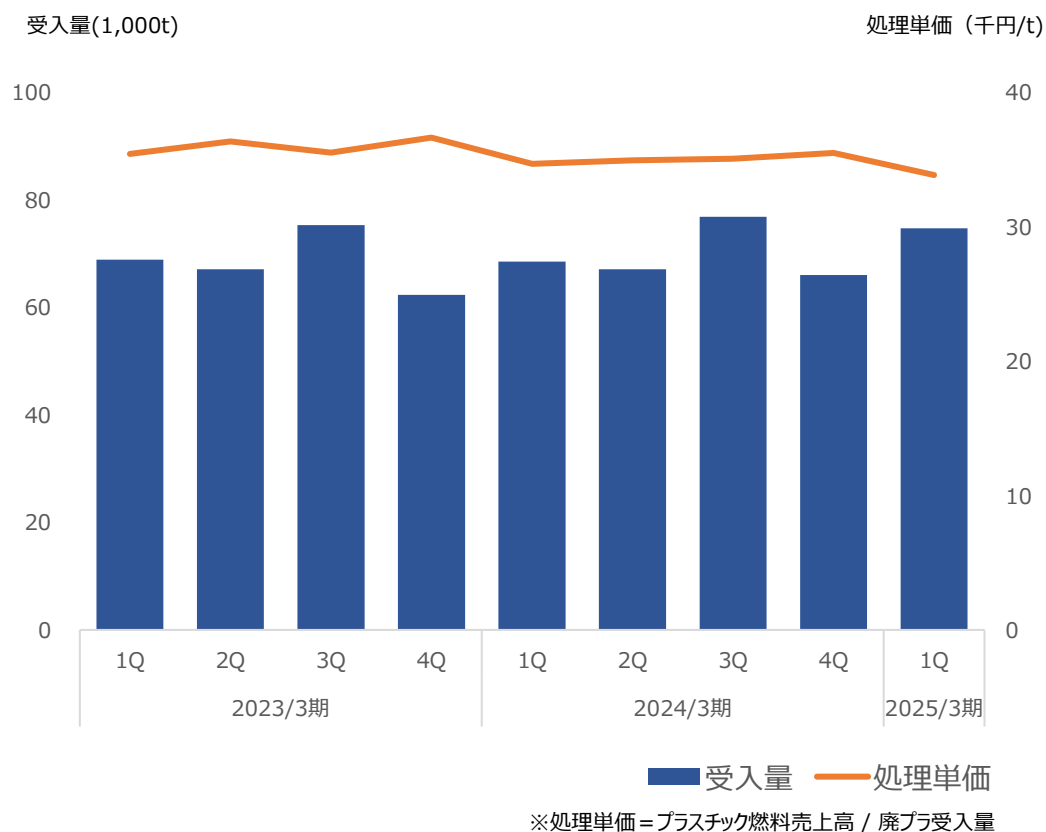
市場価格は、1Qでは予想を下回ったものの、7月以降は上昇傾向にある。入札案件の販売価格も上昇しており、新たに販売先の確保ができています。

※卸電力取引市場（JEPX）の「スポット市場インデックス」資料を当社が加工

当社の電力調達に関わる重要な市場データとして、JEPX（スポット市場）価格の月間平均価格単価推移を記載しております。

JEPXの市場単価の予想は、価格予測サービスやLNG等の燃料価格の動向を鑑みて当社にて算出した数値を記載しております。

資源循環領域 | 廃プラスチックの受入状況 対応可能品目の拡大や設備増強により受入量の増加



対前年同期(1Q)

受入量 **+9.0%増**

処理単価 **△2.4%減**

資源循環型社会の実現に向けた取り組み：飲食店廃食油から固形燃料へ

2024年6月18日付の日本経済新聞に掲載されました

サニックス 廃食油から固形燃料製造

サニックスは、飲食店の廃食油からバイオマス燃料を製造し、環境にやさしいエネルギーとして活用している。廃食油は、回収された後、精製され、固形燃料として再利用される。このプロセスは、CO2排出量を削減し、持続可能な社会の実現に貢献している。

サニックスは、飲食店の廃食油を回収し、それをバイオマス燃料に変換している。この燃料は、発電や暖房などに使用される。この取り組みは、環境にやさしいエネルギーの供給を確保し、持続可能な社会の実現に貢献している。

サニックスは、廃食油を回収し、それをバイオマス燃料に変換している。この燃料は、発電や暖房などに使用される。この取り組みは、環境にやさしいエネルギーの供給を確保し、持続可能な社会の実現に貢献している。

「清潔は産業」 海外進出に意欲

サニックスの宗政社長は、「清潔は産業」として海外進出に意欲を示している。彼は、海外市場での成長を期待し、持続可能な社会の実現に貢献したいと考えている。

宗政社長は、「清潔は産業」として海外進出に意欲を示している。彼は、海外市場での成長を期待し、持続可能な社会の実現に貢献したいと考えている。

沖縄県議 新しい顔ぶれ

沖縄県議の選挙結果が発表された。サニックスの宗政社長も立候補し、新しい顔ぶれで県議会に参議した。

宗政社長は、沖縄県議として活動し、持続可能な社会の実現に貢献したいと考えている。

内藤証券

九州地区 飯塚支店 延岡支店
福岡支店 大分支店 都城支店

宗政社長「日本の清潔を海外へ」

サニックスの宗政寛社長は、日本経済新聞のインタビューに対して「清潔は世界に売れる日本の産業だ」と語り、海外進出への意欲を強調した。一問一答は次の通り。



海外進出への意欲を示すサニックスの宗政社長（福岡市）

——創業50年を迎える来春、持ち株会社制に移行する予定です。今後の成長戦略は。

「3本柱である祖業のシロアリ駆除をはじめとする住環境事業、太陽光などの再生可能エネルギー事業、廃プラスチックや廃液の処理・リサイクル事業はそれぞれ顧客もビジネスモデルもまったく違う。分社化により意思決定を迅速化し、M&A（合併・買収）などを通じて各事業を成長させようと考えた」

——事業拡大のプランは。

「具体的な計画はまだないが、海外に進出したい。日本は『失われた30年』と言われてきたが、この間に街は本当にきれいになった。清潔は世界に売れる日本の産業であり、我々の仕事の根幹だ」

「インドで今年開かれる（害虫駆除の技術を紹介する）ペストコントロールの世界大会に若手研究員を視察のため派遣し、同大会への2年後の出席を目指す。2年に1度ドイツで開かれる環境技術の世界見本市にも我々のリサイクル技術を持ち込もうと考えている。今後10年くらいで海外進出の準備を進めたい」

1. 決算概況
2. セグメント別決算概況
 - ① 住環境領域
 - ② エネルギー領域
 - ③ 資源循環領域
3. 通期連結業績見通し
4. 参考資料

業績見通しについては、2024/5/15発表より変更はありません

2025年3月期 通期連結業績見通し

●売上高 46,246百万円 (前期比 98.0%)

●営業利益 1,715百万円 (前期比 45.8%) (再掲)

(百万円)	上半期		下半期		通期	
	計画	前年同期差異	計画	前年同期差異	計画	前期差異
売上高	22,726	+137	23,519	△1,058	46,246	△921
売上総利益	7,848	△700	8,153	△1,400	16,001	△2,100
(売上高売上総利益率)	34.5%		34.7%		34.6%	
営業利益	613	△868	1,102	△1,159	1,715	△2,028
(売上高営業利益率)	2.7%		4.7%		3.7%	
経常利益	483	△860	957	△1,165	1,440	△2,025
(売上高経常利益率)	2.1%		4.1%		3.1%	
親会社株主に帰属 する当期純利益	366	△759	727	△843	1,093	△1,603
(売上高当期純利益率)	1.6%		3.1%		2.4%	

通期連結業績見通し | セグメント別見通し

● 主要因

- 住環境領域 増収増益の見通し：営業力と顧客基盤を生かした既存事業の拡大
- 資源循環領域 減収減益の見通し：苫小牧発電所の売電単価の低下

	上半期		下半期		通期	
	計画	前年同期差異	計画	前年同期差異	計画	前期差異
(百万円)						
売上高	22,726	+ 137	23,519	△ 1,058	46,246	△ 921
住環境領域	8,977	+ 1,073	8,726	+ 805	17,704	+ 1,879
エネルギー領域	6,115	+ 629	6,204	△ 764	12,320	△ 134
資源循環領域	7,633	△ 1,565	8,587	△ 1,099	16,221	△ 2,665
営業利益	613	△ 868	1,102	△ 1,159	1,715	△ 2,028
住環境領域	1,336	+ 483	1,043	+ 171	2,379	+ 655
エネルギー領域	174	+ 155	78	△ 279	252	△ 124
資源循環領域	566	△ 1,414	1,297	△ 1,443	1,863	△ 2,858
配賦不能	△ 1,464	△ 92	△ 1,316	+ 391	△ 2,780	+ 299

通期連結業績見通し | セグメント別見通し【住環境領域】

● 前期比 増収・増益

- 既存顧客への継続的なフォロー体制の拡充及び、法人営業体制強化による顧客件数の増加を図る
- 白蟻防除から住宅環境ニーズへ幅広く対応（住宅用PPAや蓄電池など）
- 集合住宅向けには、防錆機器（商品名：ドールマンショック）から給排水設備の保全対策へ拡大

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売 上 高	8,977		+ 1,073	8,726		+ 805	17,704		+ 1,879
H S 事業	6,816	75.9%	+ 832	6,502	74.5%	+ 628	13,318	75.2%	+ 1,461
E S 事業	1,366	15.2%	+ 39	1,433	16.4%	+ 59	2,800	15.8%	+ 99
S E 事業	795	8.9%	+ 200	791	9.1%	+ 117	1,586	9.0%	+ 318
売 上 原 価	3,941	43.9%	+ 559	4,066	46.6%	+ 492	8,008	45.2%	+ 1,051
うち、材料費	1,378	15.4%	+ 250	1,402	16.1%	+ 215	2,781	15.7%	+ 465
うち、労務費	1,320	14.7%	+ 78	1,388	15.9%	+ 158	2,708	15.3%	+ 237
売 上 総 利 益	5,035	56.1%	+ 514	4,660	53.4%	+ 313	9,695	54.8%	+ 828
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費	3,699	41.2%	+ 30	3,617	41.4%	+ 141	7,316	41.3%	+ 172
うち、人件費	2,332	26.0%	+ 92	2,333	26.7%	+ 137	4,665	26.4%	+ 230
営 業 利 益	1,336	14.9%	+ 483	1,043	12.0%	+ 171	2,379	13.4%	+ 655

通期連結業績見通し | セグメント別見通し【エネルギー領域】

● 前期比 減収・減益

- 太陽光発電システムにおいては、「自家消費」太陽光発電システム販路拡大を図るとともに、既設太陽光発電所の機器交換・アフターメンテナンスの体制強化を進める
- 苫小牧発電所の非化石価値電力の付加価値を有効活用した売電を推進

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高	6,115		+ 629	6,204		△ 764	12,320		△ 134
P V 事業	4,898	80.1%	+ 746	4,986	80.4%	△ 720	9,884	80.2%	+ 26
新電力事業	1,217	19.9%	△ 117	1,218	19.6%	△ 44	2,436	19.8%	△ 161
売上原価	4,917	80.4%	+ 468	5,072	81.7%	△ 483	9,989	81.1%	△ 15
うち、材料費	3,427	56.0%	+ 246	3,498	56.4%	△ 420	6,925	56.2%	△ 173
うち、労務費	316	5.2%	+ 17	316	5.1%	+ 12	633	5.1%	+ 29
売上総利益	1,198	19.6%	+ 161	1,132	18.3%	△ 280	2,330	18.9%	△ 119
販売費・一般管理費	1,024	16.7%	+ 5	1,054	17.0%	△ 1	2,078	16.9%	+ 4
うち、人件費	539	8.8%	△ 7	572	9.2%	+ 1	1,112	9.0%	△ 6
営業利益	174	2.8%	+ 155	78	1.3%	△ 279	252	2.1%	△ 124

通期連結業績見通し | セグメント別見通し【資源循環領域】

● 前期比 減収・減益

- プラスチック事業においては、設備投資による受入量の拡大及び販路拡大
- プラスチック原料として再利用する「マテリアルリサイクル」への展開を進める
- 契約書・マニフェスト、自治体への実績報告等のサポートに加え、サステナビリティ報告に必要な排出量算出ができるように、廃棄業務管理システムの機能を拡充
- 廃液処理においては、重油代替燃料「再生油Bio」の製造増強や、廃液処理後に発生する汚泥の再生燃料化を推進

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売 上 高	7,633		△ 1,565	8,587		△ 1,099	16,221		△ 2,665
プラスチック事業	5,049	66.2%	△ 33	5,213	60.7%	△ 171	10,263	63.3%	△ 204
発電事業	1,053	13.8%	△ 1,565	1,850	21.5%	△ 844	2,903	17.9%	△ 2,409
廃液事業	1,136	14.9%	+ 126	1,198	14.0%	+ 69	2,335	14.4%	+ 196
埋立事業	393	5.1%	△ 93	325	3.8%	△ 154	718	4.4%	△ 248
売 上 原 価	6,018	78.8%	△ 190	6,227	72.5%	+ 333	12,246	75.5%	+ 143
うち、労務費	995	13.0%	+ 45	1,004	11.7%	+ 4	1,999	12.3%	+ 50
売 上 総 利 益	1,614	21.2%	△ 1,375	2,360	27.5%	△ 1,433	3,974	24.5%	△ 2,809
販売費・一般管理費	1,048	13.7%	+ 39	1,063	12.4%	+ 9	2,111	13.0%	+ 48
うち、人件費	637	8.3%	+ 36	640	7.5%	+ 5	1,278	7.9%	+ 42
営 業 利 益	566	7.4%	△ 1,414	1,297	15.1%	△ 1,443	1,863	11.5%	△ 2,858

1. 決算概況
2. セグメント別決算概況
 - ① 住環境領域
 - ② エネルギー領域
 - ③ 資源循環領域
3. 通期連結業績見通し
4. 参考資料

決算概況

(百万円)	2024/3期 1Q 実績	2025/3期 1Q 実績	増減額	増減率	2025/3期 上期計画	上期 進捗率
売上高	11,081	10,288	△ 792	△ 7.1%	22,726	45.3%
売上総利益 (売上高売上総利益率)	3,757 33.9%	3,526 34.3%	△ 231	△ 6.2%	7,848 34.5%	44.9%
営業利益 (売上高営業利益率)	154 1.4%	△ 116 —	△ 270	—	613 2.7%	—
経常利益 (売上高経常利益率)	73 0.7%	△ 185 —	△ 258	—	483 2.1%	—
親会社株主に帰属 する四半期純利益 (売上高四半期純利益率)	63 0.6%	△ 255 —	△ 318	—	366 1.6%	—

セグメント別決算概況

(百万円)	2024/3期 1Q 実績	2025/3期 1Q 実績	増減額	増減率	2025/3期 上期計画	上期 進捗率
売上高	11,081	10,288	△ 792	△ 7.1%	22,726	45.3%
住環境領域	3,938	4,113	+ 174	+ 4.4%	8,977	45.8%
エネルギー領域	2,647	2,314	△ 332	△ 12.6%	6,115	37.8%
資源循環領域	4,495	3,861	△ 634	△ 14.1%	7,633	50.6%
営業利益	154	△ 116	△ 270	—	613	—
住環境領域	402	521	+ 119	+ 29.8%	1,336	39.0%
エネルギー領域	△ 9	△ 37	△ 28	—	174	—
資源循環領域	497	149	△ 347	△ 69.8%	566	26.5%
配賦不能	△ 735	△ 750	△ 15	—	△ 1,464	—

セグメント別決算概況 | 住環境領域

	2024/3期 1Q 実績	2025/3期 1Q 実績	増減額	増減率	2025/3期 上期計画	上期 進捗率
(百万円)						
売上高	3,938	4,113	+ 174	+ 4.4%	8,977	45.8%
H S 事業	3,027	3,182	+ 155	+ 5.1%	6,816	46.7%
E S 事業	618	636	+ 17	+ 2.9%	1,366	46.6%
S E 事業	292	294	+ 1	+ 0.5%	795	37.0%
売上原価	1,678	1,781	+ 102	+ 6.1%	3,941	45.2%
うち、材料費	554	561	+ 7	+ 1.3%	1,378	40.7%
うち、労務費	628	621	△ 7	△ 1.2%	1,320	47.1%
売上総利益	2,259	2,331	+ 71	+ 3.2%	5,035	46.3%
販売費・一般管理費	1,857	1,809	△ 47	△ 2.6%	3,699	48.9%
うち、人件費	1,126	1,102	△ 24	△ 2.2%	2,332	47.3%
営業利益	402	521	+ 119	+ 29.8%	1,336	39.0%

セグメント別決算概況 | エネルギー領域

(百万円)	2024/3期 1Q 実績	2025/3期 1Q 実績	増減額	増減率	2025/3期 上期計画	上期 進捗率
売上高	2,647	2,314	△ 332	△ 12.6%	6,115	37.8%
P V 事業	2,064	1,760	△ 303	△ 14.7%	4,898	35.9%
新電力事業	583	554	△ 29	△ 5.0%	1,217	45.5%
売上原価	2,147	1,798	△ 348	△ 16.2%	4,917	36.6%
うち、材料費	1,501	1,172	△ 329	△ 22.0%	3,427	34.2%
うち、労務費	154	140	△ 13	△ 8.9%	316	44.4%
売上総利益	499	516	+ 16	+ 3.2%	1,198	43.1%
販売費・一般管理費	509	553	+ 44	+ 8.8%	1,024	54.1%
うち、人件費	268	299	+ 30	+ 11.4%	539	55.5%
営業利益	△ 9	△ 37	△ 28	—	174	—

セグメント別決算概況 | 資源循環領域

(百万円)	2024/3期 1Q 実績	2025/3期 1Q 実績	増減額	増減率	2025/3期 上期計画	上期 進捗率
売上高	4,495	3,861	△ 634	△ 14.1%	7,633	50.6%
プラスチック事業	2,559	2,689	+ 130	+ 5.1%	5,049	53.3%
発電事業	1,227	379	△ 847	△ 69.1%	1,053	36.0%
廃液事業	481	527	+ 45	+ 9.5%	1,136	46.4%
埋立事業	227	264	+ 37	+ 16.5%	393	67.4%
売上原価	3,497	3,182	△ 314	△ 9.0%	6,018	52.9%
うち、労務費	475	502	+ 26	+ 5.5%	995	50.5%
売上総利益	998	678	△ 319	△ 32.0%	1,614	42.0%
販売費・一般管理費	501	528	+ 27	+ 5.5%	1,048	50.5%
うち、人件費	298	309	+ 11	+ 3.9%	637	48.6%
営業利益	497	149	△ 347	△ 69.8%	566	26.5%

財務状況

単位:百万円	2024/3期 期末	2025/3期 1Q末	前 期 末	
			差異	前期末比
流動資産	16,211	16,137	△ 74	99.5%
固定資産	20,753	21,904	1,150	105.5%
資産合計	36,965	38,041	1,076	102.9%
流動負債	18,010	18,399	389	102.2%
固定負債	10,042	10,981	938	109.3%
負債合計	28,053	29,381	1,327	104.7%
純資産合計	8,912	8,660	△ 251	97.2%
負債純資産合計	36,965	38,041	1,076	102.9%
自己資本比率	24.1%	22.7%		

設備投資・減価償却費 実績

(百万円)	2024/3期 1Q 実績	2025/3期 1Q 実績
住環境領域	5	9
エネルギー領域	59	61
資源循環領域	584	1,592
本社	62	4
設備投資合計	711	1,668
減価償却費	390	377

【主な設備投資】

【資源循環領域】

- 苫小牧発電所にかかる投資 : 1,265百万円
- 廃プラスチック処理設備にかかる投資 : 183百万円
- 廃液処理にかかる投資 : 132百万円

【エネルギー領域】

- 自治体向けPPAにかかる投資 : 38百万円

セグメント別 人員・拠点数

	2024/3期 期末		2025/3期 1Q末		人員増減
	拠点数	人員数	拠点数	人員数	
H S部門	62	864	62	878	+14
E S部門	12	162	12	164	+2
S E部門	14	75	14	71	△4
P V部門	30	245	28	261	+16
新電力部門	1	13	1	15	+2
環境資源開発部門	19	455	19	465	+10
本社	—	235	—	239	+4
合 計	—	2,049	—	2,093	+44

※上記拠点数には、同一拠点を含む

※環境資源開発部門は、発電所1拠点、最終処分場1拠点含む

重要経営指標

		2021/3期 実績	2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2025/3期 計画
自己資本当期純利益率	ROE	27.9%	—	24.8%	36.1%	11.6%
総資産経常利益率	ROA	6.4%	—	4.5%	9.8%	3.8%
自己資本比率		24.5%	13.5%	18.0%	24.1%	25.4%
投下資本利益率	ROIC	11.2%	—	8.4%	14.4%	6.4%
設備投資 (百万円)		3,083	2,776	1,566	2,743	3,900
減価償却費 (百万円)		1,097	1,509	1,889	1,654	1,700

補足資料

企業理念 「次世代へ快適な環境を」

エネルギー領域

- PV
- 新電力

『環境負荷の低い

エネルギーが当たり前の社会』
再エネの主力電源化、分散電源、自家消費、
マイクログリッド、V P P

『快適な住環境を次世代に
つなぐのが当たり前の社会』

長期優良住宅、住宅のストック化、既存住宅
流通市場形成

住環境領域

- HS
- ES
- SE

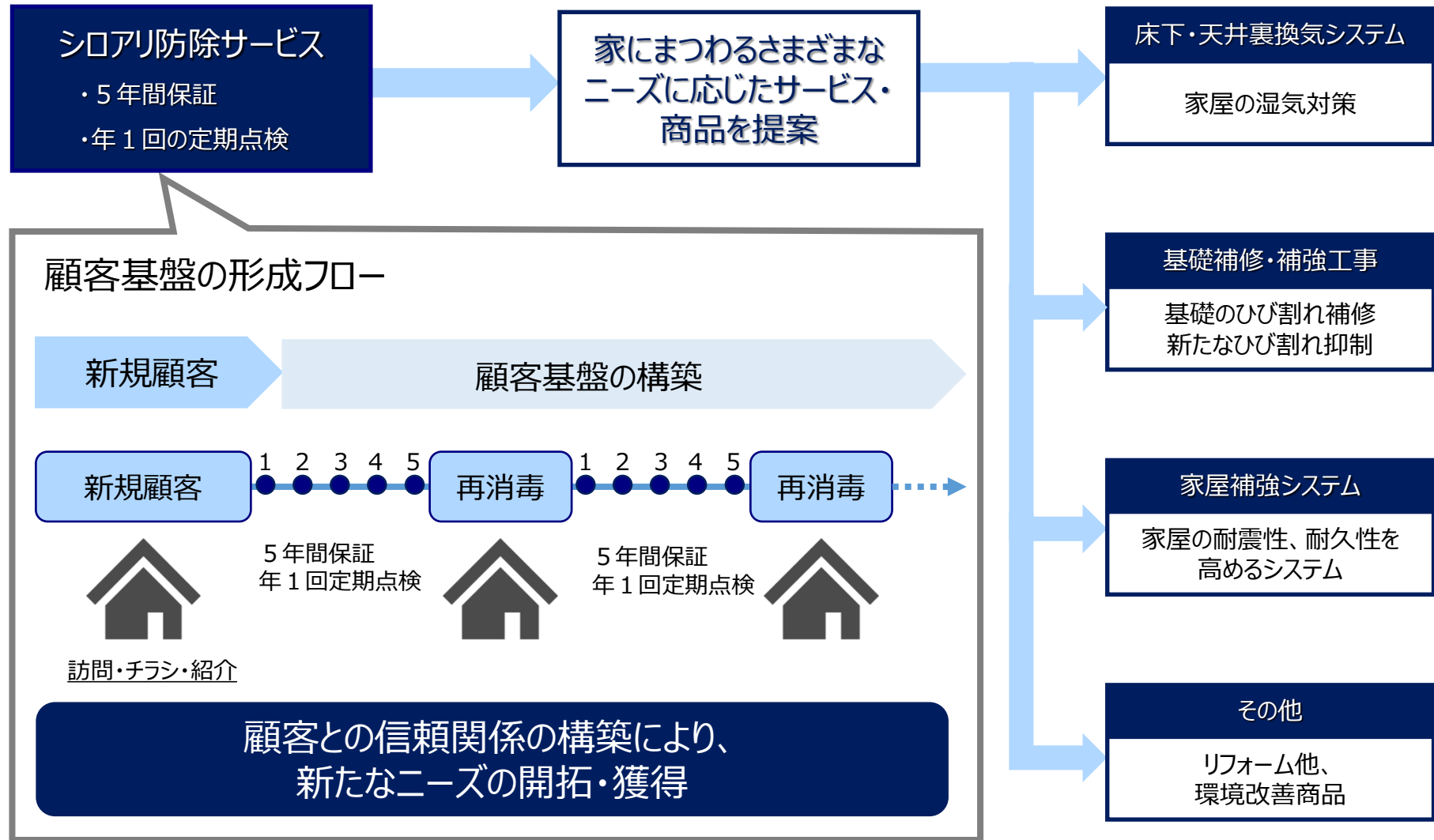
資源循環領域

- 環境資源

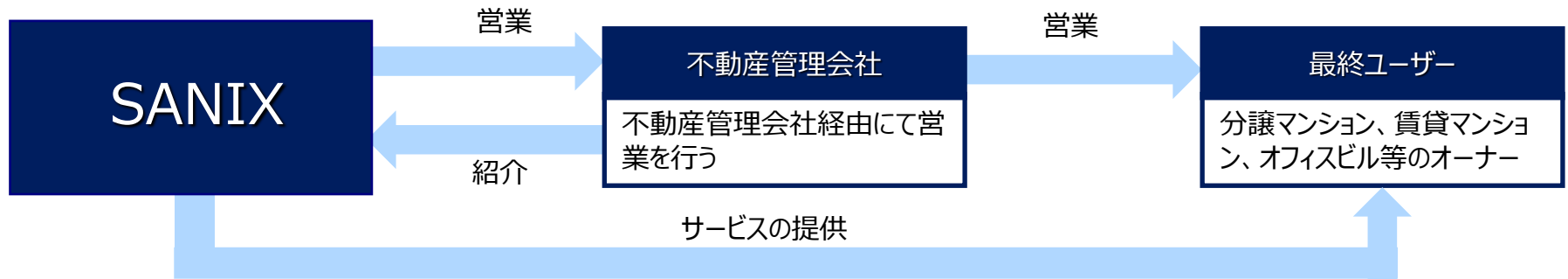
『捨てないのが当たり前の社会』

環境基本計画、循環型社会形成推進、
プラスチック資源循環戦略

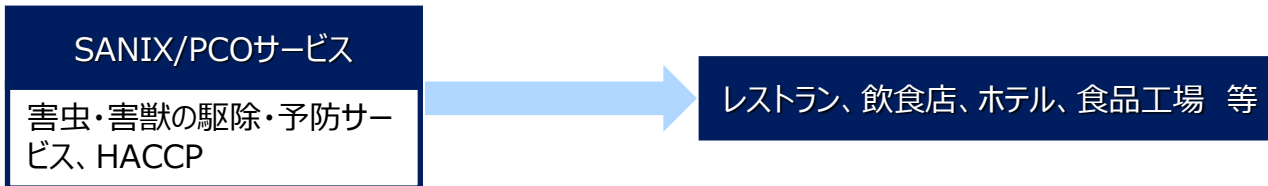
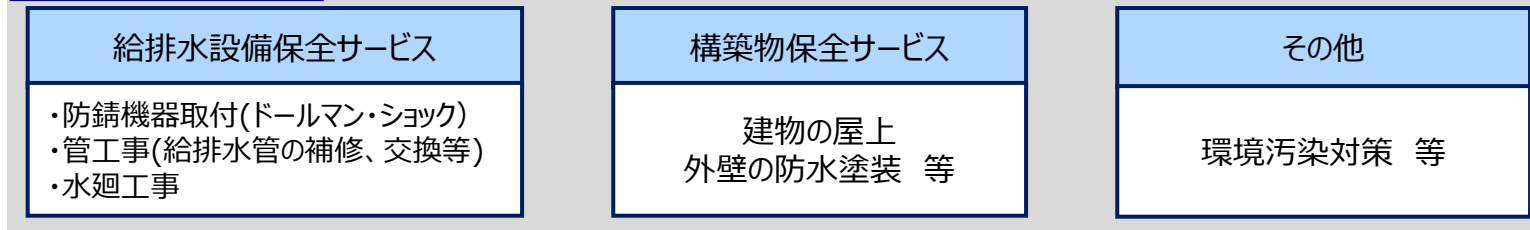
HS事業構造



E S 事業構造



主なサービス・商品



年間契約 (月 1 回の点検、消毒)

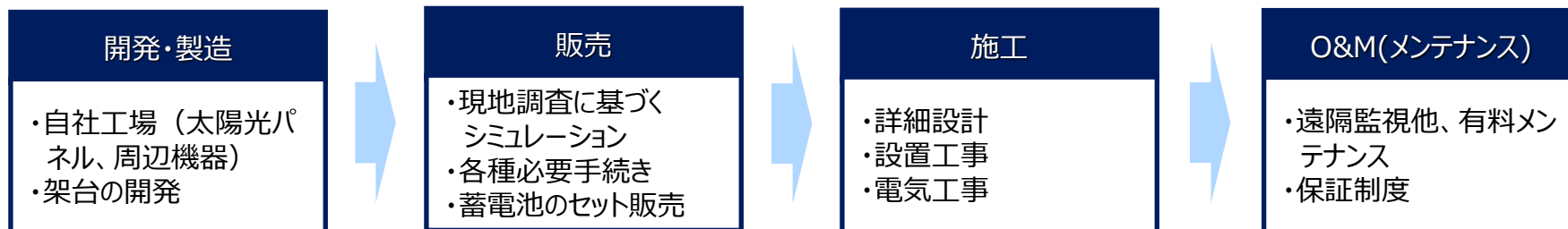


年間契約のため、継続率が高い



SE/PV事業構造

調達・販売・施工・メンテナンスまでトータルサービスを提供



住宅向け（10kW未満） 主にSE事業部門

- 新築住宅：ZEH普及促進
- 既築住宅：省エネ改修支援等による導入加速を背景に、住宅・小規模建築物向け太陽光発電市場は堅調な推移が見込まれる

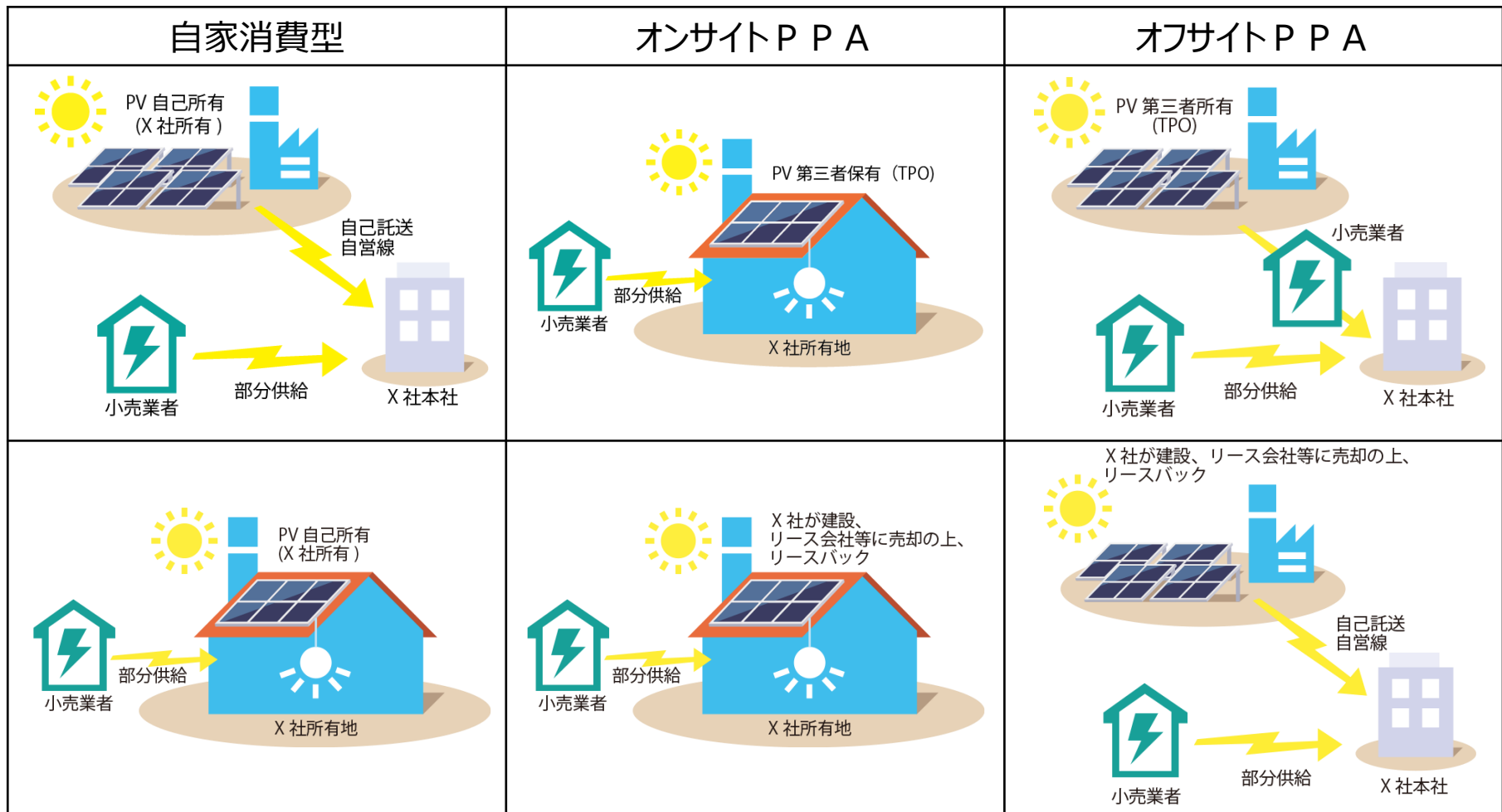
➡ 住宅太陽光発電市場専門の組織を新たに編成し、積極的な開拓を狙う

法人・自治体向け（10kW以上） 主にPV事業部門

企業や地方自治体を中心に、脱炭素への取り組みが本格化。太陽光発電設備の導入・保有方法や、発電電力の供給方法等が多様化・高度化することでFIT制度下とは異なる市場が大きく成長することが見込まれる

➡ 各種サービスを展開するための協業体制が整い、FIT制度に依存しない太陽光発電の営業を本格化
更なる他社協業を進め、提供サービスの拡充を図る

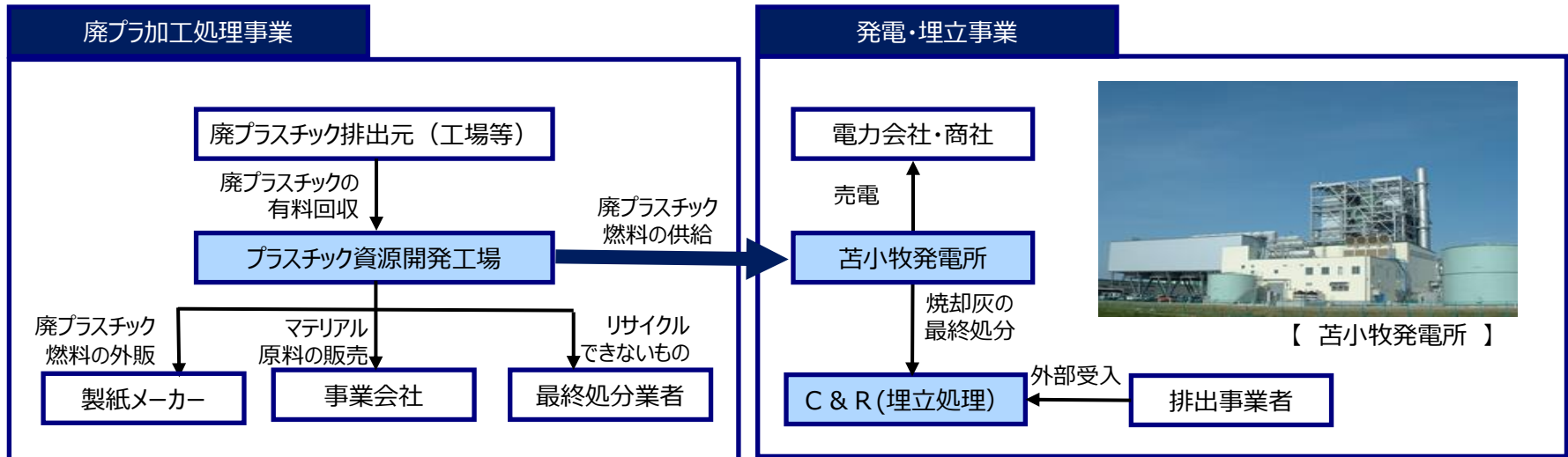
電力料金の上昇と、太陽光発電システムの低コスト化やPPAサービスの浸透等を背景に、
経済合理性・脱炭素対応・レジリエンス強化、それぞれのニーズにより太陽光導入が本格化



太陽光発電協会ホームページ「発電事業普及へ向けて」より、当社で加工

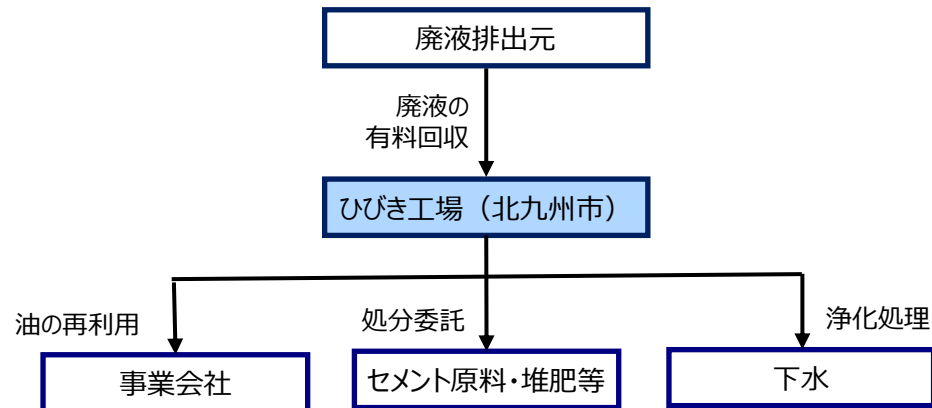
環境資源開発事業構造

資源循環型発電事業



- 全国15箇所のプラスチック資源開発工場では、メーカーなどの製造工場等から排出される廃プラスチックを、処理手数料とともに回収
- 回収した廃プラスチックは、廃プラスチック燃料に加工処理して、苦小牧発電所に供給
- 苦小牧発電所において、廃プラスチック燃料を利用して発電し、電力会社・商社に売電
- 発電所への供給以外にも、製紙メーカーへの廃プラスチック燃料の外販やマテリアル原料としての販売を実施
- 苦小牧発電所における焼却灰は、C&R(苦小牧市:埋立処理場)で最終処分を実施

廃液処理事業



【 ひびき工場 】

※汚泥・廃液を処理する施設としては、国内最大規模

- 食品・飲料工場から排出される廃液を処理手数料とともに回収
- 回収した廃液は、ひびき工場（北九州市）において、微生物処理等によって浄化
- 浄化処理後の処理水は、再利用水として再利用するか、放流基準に達していることを確認のうえ放流
- 処理工程で発生した脱水汚泥は、セメント原料や堆肥として再利用・燃料化

【免責事項】

- ・ 本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報による判断に基づくものです。従いまして、以下の要因をはじめとする様々な要因により、将来時点における実際の収益及び業績は、業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。
- ・ 新型コロナウイルス感染状況及び政府・自治体の対応、日本の景気動向、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」の動向、廃棄物（特に廃プラスチック類）の取扱いに関わる動向、他の業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の当社の予測を超える様々な要因。
- ・ 本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

＜注意事項＞

- ・ 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。
- ・ 営業利益、経常利益、当期純利益の”△”表記は、それぞれ営業損失、経常損失、当期純損失を表します。
- ・ 比率がマイナスあるいは1000%を超える値の場合「－」で表示しております。

次世代へ快適な環境を
SANIX